

【発情した獣人女戦士とハッスル☆旅籠えっち】

※一部本編と異なる場合があります

●タイトルコール

ラピス 「ぱちぱちぼいす」

ラピス 「発情した獣人女戦士とハッスル☆旅籠えつち」

●あらすじ

ラピス 「旅仲間の獣人、ラピスの様子がおかしい」

ラピス 「獣人には発情期があるらしく、あなたの身体を見て興奮してしまう」

ラピス 「自分を抑えられなくなつた女戦士のラピスに力で敵うはずもなく、強く求められて、されるがままに！」

ラピス 「獣人との激しい交尾を行つてしまふのだった」

●トランク1

【シチユエーション】

同室での宿屋

ラピス 「ふう、大分時間がかかつちゃつたけど、真つ暗になる前に帰つてこれてよかつたね」

ラピス 「依頼された魔物、強くはないけど、やたら頑丈だつたし……あたしたち二人がかりでいくら叩いても倒れないんだもん、もう疲れちゃつたよ」

ラピス 「ふあーあ……それにしても、この宿が空いてて助かったよ、ほんと」

「ん……なんか安心したら、装備が重く感じてきちゃった」

「へへ、つい言つても、あたしなんてキミと比べたら全然軽装だけどね」

「キミもその鎧脱いじやいなよ。一人じゃ難しいなんち手伝つてあげるよ?」

「おつ、“頼むわ”なんて素直だねー。それじゃ、後ろを向いてもらひていいかい?」

「ん、しょ……、よつ、と……うん、留め具も外しあつと……そしたら今度は腕を伸ばしてくれる?」

「よし、んじゅ、チエストを引っ張るね。よ、い……しょっと、おもたー!!」

「……ふーー、相変わらずゴツい鎧だけど、これも随分ボロボロになっちゃったねえ」

「出合った頃はピカピカだったのにね」

「えつ? いつもあたしが前に出過ぎるせい? うつ、それは……感謝しておりますう……」

「あ、そだそだ、出合った時の」と覚えてる?」

ラピス

「うん、ここの一一番でつかい凹みが出来た時の話だよ」

「あたし、獣人だからさ、周りの人は気味悪がつて、全然一緒に冒険してくれなかつたんだよね」

「それで、『実力で見返してやるー!』って思つてさ、つよい魔物を倒す依頼を受けてさ」

「ところがもう、その魔物が強いのなんのって……あたし、逃げるのだけで精一杯だつたし」

「もう捕まっちゃう! 一巻の終わり! つて時だよね……キミが庇つてくれたのは」

「んで、二人してほうほうの体でなんとか逃げ出してさ」

「それからだよね、なんとなく腐れ縁みたいに、一緒に冒険をするようになつたのって」

「むー、なんで笑うの……危なつかしいから側に付いてるだけだ、つて?」

「そっちこそ頭カツチカチだから、急に襲われた時とかは、あたしに救われてるでしょ!」

「……ふつ、くすくす。やっぱりあたしたち、なんだかんだ言つていいコンビなのかもね」

ラピス

ラピス	「キミはこんなす」——相棒に出来たことに、感謝するよーに!」
ラピス	「なによー、その苦笑いは……もお……」
ラピス	「そりいえば、今日は結構汗かいちゃったね」
ラピス	「この地方は涼しい方だけど、魔物倒すのに時間がかかるちゃつたらねえ……」
ラピス	「つて、ええつー? なんでキミ、いきなり服を脱いでるのつー?」
ラピス	「あ、汗拭くつて……それなら、お風呂にいけばいいじゃない!」
ラピス	「ここの宿つてお風呂ない? そりいえば、そつだつた……! ?」
ラピス	「だ、だからつてあたしの前で脱ぐ」とないじやないつ!!」
ラピス	「そ、そのお……あたしだつて、一応女の子……なんだしつ……」
ラピス	「んもう……キ、キミが意識しなくても、あたしが意識するのつー! ほら、早く服着てつ……」
ラピス	「じゃないと……じゃないとあたし……わうつ……ふう……ふうう……」

「わふつ……！ もう我慢できない……つて、なんで、逃げるの……？」

「あ、あたしをこんな風にさせたのは……キミ、なんだから……」

「あたしを」「んな風にさせたのは……キミ、なんだから……逃げちゃ、ダメだよ」

「“じゅうじゅう”と……”だつて……あれ、言つてなかつたつけ？ 獣人つてのはね、…………ふふふ……発情期があるんだよ」

「さつきまで話をしてる時も、結構我慢してたんだけど……」

「はあ……はあ……それが、今セ……キミの立派な裸なんて見ちゃったから……」

「あたし、もう……我慢、できなくなつちやつたんだよね……」

「ふう、くうん……だからあ……責任取つて……たしの、発情を……鎮めてくれない？」

「ほら、もう……逃さないん……だからあ……」

●トラック2

「ふーつ……ふーつ……えへ、えへへ……ちょうど
ベッドの上に、乗つかつちゃつたね」

「もしかしてキミもちょっとは期待してたのかな?
なーんて」

「うふふ、逃げようとしても無駄だよ。力ならあ
しの方が強いって、相棒のキミが一番よく分かっ
てるもんねえ?」

「すんすん、すう、すうう……はあ……男の人の匂
い嗅いでるとお……どんどん興奮が大きくなっ
てくるう……」

「はあ……はあ……自分で不思議だよお……匂い
だけなのに、頭が痺れちゃいそうな感じがしてく
る……」

「これが、発情期ってやつなんだ……いつも以上に
エッチな気持ちになっちゃうし、今までは、発情
期中に男の人に近づかないようにしてたから…
…」

「ん? 一人のときはどうしてたかって……それ
は、自分で切なくなつたトコロ、触つてたよ…
…?」

「右手でえ……敏感になつたおっぱい触りながら、
おまんこの中、じゅぶじゅぶ弄つてたの……」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

「おまんこ弄つてる手……左手が、上方にある
ぽっちに触れると、ビクビクツ、ビクビクツ、つ
て、何度も何度も頭真っ白になっちゃうんだよ」

ラピス
ラピス

「あ……キミも、ちょっとビクつてしたね？　あた
しがおまんこ触つてるとこ想像して、興奮して
る？」

ラピス

「隠さなくともいいよお……あたし、鼻がいいから
……キミから男の人の匂い、どんどん強くなっ
てるので、すぐ分かっちゃうからね、ふふ」

ラピス

「汗拭く前だつたからあ……ほんとおに濃厚な、男
の人の匂いするねえ……クラクラしちゃいそうだ
よお……」

ラピス

「はあ……はあ……ぐう、ううん……もう、我慢出
来ないよ……我慢、出来ないつ、はうううつ…
……」

ラピス

「かぶつ……んむつ、ちゅつ、ちゅつ……」

ラピス

「んんう……えへへ、知つてた？　お耳つて、その
人の匂いが一番強く出るんだよ……ん、ちゅつ、
ちゅつ……」

ラピス

「キミの味はあ……あたし、とつても好き……
ふう、くうん……チュウ、してると……」

ラピス 「匂いと、味、が……頭、焼いややうみたいに……
ビニビニ～つてするう……」

ラピス 「もつと……もつと欲しい、欲しいよお……キミの
匂い、もつと味わいたい、ん、ちゅうひつ……」

ラピス 「ちゅう、ちゅう……んれるつ、ちゅ、んちゅる…
…じゅうひつ、んじゅう、ちゅう……」

ラピス 「んじゅう、ちゅう、ちゅうひつ……ふあ…
はあ、んあ、はあん、くうう、んつ……」

ラピス 「ん、んうう……~ キミの、脱ぎかけのズボン…
…なんだか変な形になつてゐね……」

ラピス 「あ、もしかしてえ……おつかくなつちやつた…
…? お・ち・ん・ち・ん……」

ラピス 「ふふーん、普段は全然女扱いしてくれない癖にい
……ペロペロしたたら、すぐ大きくなつちやつ
んだ……」

ラピス 「いつもはムツツリしてゐるのに……キミって、本
当はとってもえつちさんのかなあ……?」

ラピス 「ちゅう、ちゅう……んん……舐めると、ビクン、
ビクンのズボンが揺れるの、おもしろーい♪」

ラピス 「切ない? 辛い? えくえく、やだあ、そんなんや
らしい顔があたしのこと見てえ……」

ラピス 「んんむ、ちゅ、れる……仕方ないなあ……触つてあげても、いい、よ……?」

「べ、別にあたしが触りたい訳じゃなくて……キミが苦しそうだから、仕方なく、だからだもんねつ、ふふーん」

ラピス 「えへへ……んふう……それじゃあ、ズボンおろしちゃうね……いひひい……」

ラピス 「ふああ、ひやう、ん、くうう……うううんっ…」

ラピス 「キミのおちんちん、す」「じ」とになっちゃってるね……」

ラピス 「もひ、破裂しちゃいそうなくらい大きくなつて……怖いくらい、血管がビクビク動いてる…」

…

ラピス 「先っぽから、トロトロへつてしまつぽい匂いのするお汁も垂れてて……男の人のつて、興奮すると」「うなつちやうんだねえ……」

ラピス 「えへへ……小さい時は、前うに事故で見たことあつたけど……」

ラピス 「あんな可愛いのが、こんなゴジゴジした魔物みたいな、こわーい見た目になつちやうんだねえ……」

「でも、なんだか目が離せなくなっちゃっている……」
見ると、もつと興奮しちゃうみたいで……

「ね、ね。男の人も、えっちな気持ちが治まらない
なつたら、自分の手で気持ちよくなるんだよ
ね？」

「だ、だつたら、あのや……あたしの手で、気持ち
よくしてみてもいい……？」

「あっ、また逃げようとして……むう、決定です！
おちんちんを、あたしの手で気持ちよくしてあ
げちゃうからねっ！」

「そ、それじゃあ……触っちゃう……からね……」

「すう、すう……んんう、はあっ……」

「ん、くつ……うわ、これ……す」「熱い……」

「んんつ……あたし、ただ触ってるだけ、なのに……
おねだりするみたいに、指に……うう、絡みつ
いて来てるう……」

「あつ……先っぽのトロトロ、ビンビン溢れてぐる
ね……うわあ……あたしの手、ビンビンショコラショコラ
なっちゃいそ……」

「ううん、大丈夫。全然嫌じゃない……つていう
か、むしろこーぶんしてる……んん……」

ラピス 「あたしがおまんこ触るといつぱいお汁出ちゃうみたいにい……男の人も、えっちな気分な時はいっぱいお汁出ちやうんだねえ……」

ラピス 「でも、やっぱこのままだと、うぶふ……苦しい、よね?」

ラピス 「一人でやつてる時は、どうしてるの?」

ラピス 「……恥ずかしがらなくてもいいじゃない、もうあたしたち、こんなこともしちゃつてるんだからあ……♪」

ラピス 「うん……うん……握つて、上下に動かす……ふむふむ♪……」

ラピス 「それじゃあ、女の子に握せえつけられて、お耳ぺろぺろされてえ……」

ラピス 「なさけなーく大きくなつちやつてる、なさけないおちゃんぽをお……♪」

ラピス 「あたしがいっぱい、シロ、シロ……してあげるね……♪」

ラピス 「ふふり、またビクビクしてえ……堪え性がないなあ……焦らなくとも、ちゃんととしてあげるつて、ほらあ……」

「ん、ふう……んむつ、んつ……はつ、んつ……
んつ、んん……」

「す」……シロ・シロへりする、と……ビビビと大
きくなつてくみたいい……」

「ズボン脱いだ時でも、びっくりするくらい大き
かったのに……あたしの手の中で、まだ大きくなつてる……」

「はあ……はあ……キミの匂いが、すっ」じ濃く
なつてえ……あたしも、えつちな気分……これ、
とまんないよお……」

「んんんつ…… もつと、もつと欲しいよつ……
キミの」と、もつと欲しくなつちゃつてゐるつ……
……」

「んじゅつ、あゅつ……あゅうつ、ちゅぱつ、ん
じゅつ、んじゅる……ぶあ、ふあ、くうう……」

「ちゅむつ、れじゅるつ……あゅぶわづぶ……れ
る、れる……れろお……れる、れるるつ……」

「んふう……耳を舐めると、おちんぽが……ビビビ
ん興奮してくるの、分かつちやうよお……」

「あたしも、キミの匂い匂いで……もお、頭の中
……蕩けて来ちゃつてる……」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

「大人の人のしてる、こーびつて、こうこう」とな
のかな……おちんぽ使つて氣持ちよくなつてるん
だもん、こーび、だよね……♪」

ラピス

「あたし、もつともつと……キヨリーび、したい
……お耳ペろペろこーび、もつとしちやうつ、か
らねつ……」

ラピス

「ふむつ、じゅつ、ちゅつ、あゅううう、ん
ぢゅつ、じゅつ、ちゅつ、あゅううう、ん
ちゅつ、ちゅつ、ちゅつ！」

ラピス

「ふあつ、んつ……ちゅつ！ れる、れろれ
ろおつ、れるつりつりつ、れるつ、ちゅつ……じゅ
るる……じゅうつうへへへつ……」

ラピス

「はあ、はあつ、んううつ、んつ、わふつ、わふつ
……切ないの、どんどん大きくなるのに……」

ラピス

「おまんこ、イケない時みたい、につ……すつ」「
い、切ない……切ないままだよお……」

ラピス

「ね、ね……おちんぽシロシロしたら、最後どつな
るのつ、早く、最後欲しい……」

ラピス

「最後来て、もやもやつしたの全部消える、氣
持ちいいの、欲しいよ……ね、どつしたりい、
どうしたらいいかなつ……」

「うる、おこりの六から、由の出たるわ
り、なんだね？」

「じゃあ、ペルペル、もひ、こころ、まお……
番、強くするか、ひ……」

「いっぽ、いっぽ……由の出しつ、いっぽ
出しつ、あたしの」と、眞理ちゃんへ「
ねつー」

「んじゅいり、じゅるる、じゅうす、
じゅい、ぬめり、んんり、んじゅるる、
じゅいり、じゅるる、じゅうす……」

「はあ、んむ、ちゅ、ひゅ、ひゅ、
んう、しゃれ、」のこなご、しゃれ、
はあ、あああんつー」

「早く、だして、しろじの、だしてえー！
いっぽ、いっぽ、いっぽ、ほしー、ほし
いよおつー」

「れるれるつ、こじゅ、ちゅ、ちゅ、れる
るつ、これるつ……んちゅる、ちゅうつ、
ちゅうつー」

「ふわ、ひ、出る、ひ、出る、こ、こよ、
して、」のまつ、あたしにシコシコされたま
ま、おちんぽ氣持がよくなつてつー」

ラピス

「じゃあ、ペルペル、もひ、こころ、まお……
番、強くするか、ひ……」

「いっぽ、いっぽ……由の出しつ、いっぽ
出しつ、あたしの」と、眞理ちゃんへ「
ねつー」

ラピス

「んじゅいり、じゅるる、じゅうす、
じゅい、ぬめり、んんり、んじゅるる、
じゅいり、じゅるる、じゅうす……」

「はあ、んむ、ちゅ、ひゅ、ひゅ、
んう、しゃれ、」のこなご、しゃれ、
はあ、あああんつー」

「早く、だして、しろじの、だしてえー！
いっぽ、いっぽ、いっぽ、ほしー、ほし
いよおつー」

ラピス

「れるれるつ、こじゅ、ちゅ、ちゅ、れる
るつ、これるつ……んちゅる、ちゅうつ、
ちゅうつー」

ラピス

「ふわ、ひ、出る、ひ、出る、こ、こよ、
して、」のまつ、あたしにシコシコされたま
ま、おちんぽ氣持がよくなつてつー」

「えへへ、いやっ！…。まごとにぬいの、ぬい、
んひつ、あつ、わうつ、ひらり、うそつ…。」

「はあつ、ああつ……！　あちゅ、熱いじ……ん
ひつ、白いのかかつたと」ひつ、燃えぢやうへり

「はあい、おおい……おちゅ、熬い……ん
ひつ、田このかかったと」ひつ、燃えぢやうぐり
いり、ヒツヒツしゆるいー」

「んひつ、あ、はつ……くう、はあ、んあああ……はあ、はあんつ、まだ、出でるう……どぐどぐ、びゅるびゅるつ……」

「うれ、匂い、しゅ」「はあん……♪匂いだけです、おまんこヒクヒクしてね♪……んひい、ひいひんつ……」

「もっど、もっど泣いてえ……血ので汚される
の、なんかすつ、い気持ちいい、もっどあたし
にかけてえ……」

「アーッ……はあ、ん、ふうん……はあ、ひあ、
まう……へう、う、うう……はああ、はあ…
」

ラピス 「これが、こーび……なんだ……」「んなの、味わつたこと……ないからあ……少し、びっくりしちやつたあ……」

ラピス 「白いの、匂い嗅いでるとクラクラしちゃうし……大人の人って、す“いなあ……”

ラピス 「ん……でも……なんだろ……自分でする時は、おまんこすつきりってするのに……」

ラピス 「今は、なんか……おまんこの中が……びくびく……って震えてるだけで、すつきりってしないかもお……」

ラピス 「あ、もしかして……」「れつて本当のこーびじやないんだね?」

ラピス 「ねえ、田を逸らさないではつきり答えてよ! 今より先のこーびが、あるんだよね! ?」

ラピス 「むー、あくまで教えてくれないつもり? なんで、なんでさつ」

ラピス 「本物のこーびすれば、キミもあたしも気持ちよくなつて、お互に嬉しいじゃんか!」

ラピス 「あ、もしかして……まだ恥ずかしがつてるの? キミつてば、案外おこちやまなんだね? ふふ~」

ラピス 「いいもん、キミが教えてくれないなら、自分でやり方探すもんねっ」

「うーん、キミの」と舐めてるのが気持ちよかつたからあ……うん、これかなつ！」

ラピス 「えへへへ、脱ぎ脱ぎしましようね。」ら、反抗しない！ 力では、あたしに勝てないんだからねつ♪」

●トライシク③

ラピス 「ふふーん、着てるもの、全部脱げちやつたね。」「何度か見てるけど、キミの裸ってやっぱり美味しそう……といつても、食べるつて意味じやないよ？」

ラピス 「自分で上手く言えないけど……なんか……むー！ とにかく、美味しそうに見えちやうの！」

「んで、そこでわたしは考えました！ キミを舐めるのが気持ちよかつたから、美味しそうなキミの身体を全部舐めちやう……」

ラピス 「多分だけど、それが本当の「一び、だよねっ！」
ラピス 「そしたら、早速ぺろぺろしちゃうナビ……最初はどうがいい？」

「ふふーん、あたしは心が広いから、それくらいは選ばせてあげる。えへへへ、どうも 偉い でしょ」

「ふむふむ……手の指……そんなどいでいいの？」

「普段からキミが怪我した時は舐めてる気がするけどなあ……その時は、えつちな気分にならなかつたけど……」「

「ま、いいかい……言つたからには、ちゃんと舐めてあげるからねー！」

「ちゅひ、ん、ちゅぱ……べる、れろ……くくっ……ちゅひ、ちゅひ……」

「ちゅひ、ちゅひ……んくう……れる、れろお……」

「ふふう……うう……ちゅんと氣持ちよくなれてる……」

「むー……なーんか余裕そうな顔してない……」「やつぱ、指なんかじゃダメだねー……もつと氣持ちいい感じ」「いや、舐めてあげるからー！」

「気持ちいい感じ」「いや、ちゅうたらへ……ふふ、ここの、だよね……ん、ちゅう……」

ラピス

「あはり、やつぱりビクついたつー だよねー、ちゃんと男の人でも、気持ちいいよね……乳首♪」

「脱いだ時からずっと見えてばなしだったからそれで、気になつてたんだけど……」

「こーび、始めてからどんどん固くなつてゐるみたいだし……あたしと同じで、感じるとこ「んなのかなう、つて」

「大当たり、だつたみたいだね。おちんぽ触つてた時と同じくらい、キミの顔えつちになつちやつてるよ……♪」

「それなら、もつとしてあげようかなー……わふふ……あたしのベロド、こつぱいペロペロしちゃからね……♪」

「ああへん、む……ちゅひ……」

「れる、れる……ちゅひ、ちゅひ……そばあ……ちゅ、ちゅぶひ、んひ、ちゅ、んん……ちゅひつう……」

「んむひ、ちゅひ……じゅひ……じゅちゅひ、ちゅひ、んふひ、んひ、んひ……ちゅ、ちゅう……」

「ふあ、はつ……んん……」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

「んふ、えへへ……ちゃんと感じてくれる?
さつきから息が荒いみたいだけど……」

「んふ、えへへ……ちゃんと感じてくれ
さつきから息が荒いみたいだけど……」

「あたしは、氣持ちよくなつてゐるよ……なんか、キ
ララペロペロしてると、安心しちゃう……

「もひと、いろんなとこ舐めたくなつてきりやう……」
「じじよね？ ダメって言つても、しちやうナ
ビツ……！」

「れろ……れろ……ちゅ、じゅつ……れるる……
ちゅう、ちゅむ……れいお……せむ、ちゅうひり
……」

「まあ、ひい……れるつ、れぬい……ひい……れ
るぬい、れぬい、ひぬい、じゆるぬい……」

「んむ、わざわざ……。」ああ……はあ、ん、はああ

10

「んあ？ び、びっくりした……顔に向か当たつたと思つたらあ…………」

「ヤハのねやくせ……ヤハ、アヒルへ戻りになつ
ちやつてるね……△」

「あたしのまっぺたに、すりすりへしゃぐる
.....」

「すう、すう……はあ、んふう……まーたえっち
な匂いをせてるよ、」の口ちんぽ……

「あたし、キミの身体を舐めてるだけで気持ちよく
なっちゃってるからあ……」

「キミの気持ちいいと」「おちんぽ……舐めた
ら、もっと気持ちよくなるんじゃないかなあ……
…？」

「きっとそうだよ。絶対」「一びつて、おちんぽ使つ
はずだもんねっ！」

「なーに、ぼーっとあたしのここと見ちゃって。もう
お返事も出来ないくらい気持ちよくなっちゃって
るの？」

「でも、まだまだこれからだよ？ 今度は……キ
ミのおちんぽ、を……ペろペろくつて、しちゃう
んだからあ……」

「はあ……はあ……匂いだけで、『これだけ興奮する
のに、口に入れたら、どうなっちゃうんだろ……
…』

「怖いくらい、だけど……期待の方がおつきいし……
…もう、一思いに……ばく、つてしまちゃうから
ねつ…」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

…

「はうんっ！ しゅ！」これ、匂いが直接、口の中につきあつ……」

「れる、ちゅるるふむ、んむちゅ、じゅるんひい」「れ、おじしい、かもれるる、じゅちゅ……」

「けつ」一、難しい形にしてん

出す張ったところの、裏あ……」

「すう」「じ、濃い匂いしてえれるるるふう……」の味と匂い、癖になりそお……

「もひと、もひと欲しい、よおとふう……

「んむ、じゅるちゅぶ、ちゅうれる、れじゅるりんふう、んつ、んつ、んむうれるるる……」

「はあ、はあ舐めれば、舐めるほど……どんどん味濃くなつてふう……」

「溢れてくる、えつちなお汁……ペろペろしてるとれるる……あたし、も興奮で、びつこかなりそーだよお……」

ラピス

「ぐう、ん……んむるる……んあつ……ねえ、もつ
と隸へまど、隸へまど、こじて隸へまど……。」

ラピス

「ういか、至えないと、無理……あたし、」——ふん
でおかしくなつちやうか、「……」

ラピス

「根本まで、お口ドアが、ぶくぶくひきつけられ……
」

ラピス

「んじゅぱり、んじゅぱり、んじゅぱり、
ちゅ……んじゅぱり、んむり、ちゅ……
」

ラピス

「じゅるるり、じゅるるり、んぐり、じゅるり、
うり、じゅるり、じゅるり、うり
」

ラピス

「れるれる……」「うり、せり、うり、キリの
ちんぽ……お汁とよだれが混じり、とっても
えっちな味い……」

ラピス

「にひひ……」「んなの離れたままだったから、あたし
ホントにおかしくなつちやうよお……」

ラピス

「おかしくなつちやうよお……」「興奮してゐる……
ん、ちゅう……じゅうじゅうじゅうじゅうじゅう……」

「……」

ラピス

「ん——、じゅう、じゅう、じゅう、じゅう……」

「ちゅう、じゅう、じゅう、じゅう……」

「ねえ、ねえ、また出るんでしょ、白いの、また出るんでしょ……」

「今度」「や、お口!」一びで、あたしの「ハ、氣持ち

「今度は、お口一ひで、あたしの」と、気持ち

「白いの、『ぐぐ』く飲んでつ、あたしも一緒に気持ちよくなるのっ！」

「白いの、『ぐぐ』く飲んでつ、あたしも一緒に気持
ちよく、なるのつ！」

「好きだった、だひで、いじからひ、そり、れる
るひ……」

「あたひの、じとひ、氣持ちよぐ、せせりつ、ん
えうひ、んひ、んひ、えうひひひ、んちゅ
るひー。」

「おべるのせいか、じいばい、ごぐら、くへる、く」

「じゃねえか、ちぬむ、んじねえの……変な、味な
の……」……「れ、飲むの止まんなじよお……ん
くへ、「」へ、」へ、」へ……」

「ふむ、……ちかう、こ……じょゆるね、ひ、
「れ、すき、かもお……ぬ、こ、……お
こし、よお……」、「へ、へへへ……」

「ふせり……ふく、せー、せー、」、「あ、
……お口ぞ」「一ひすゐの、」「んなに……か、」「いん
だ……へ、ああん……」

「やあん……まだ、葵、こ……キリののがねばねば
へりてくひじらひるよお……」

「ふああ……頭の中、キミの匂いと味でいいぱい、
でえ……」れ、ほんと……どーにかなつちやい
そお……」「

「はあ…………はあ…………へあつ、まつ…………まーつ…………

はああ……」

ラピス	「うぐ、ハハ……キミは、すりい氣持ちよせやつ な顔てくれてるね……なんだか、嬉しいよ」
ラピス	「で、でもお……あたし、あんなに頑張ったのにい ……なんだか、まだ……お、おまんこが……満足 してない、っていうか……」
ラピス	「うーひ、おつかしいなあ……」一びのやり方、間 違つてるのかなあ……?」
ラピス	「……ねえ、ホントはキミ、正しいやり方知つてる んじゃないの?」
ラピス	「……むー、またそりやつて目を逸らすう……」「ん な」とまでしてると、まだ恥ずかしいとか言 う訳え?」
ラピス	「ん――うーん、ううーん……ビリしたり、おま んこ気持ちよくなれるかなあ……」
ラピス	「うーひ――やうだよ――あたしのおまんこ、今まで 使つてなかつたじゃん?」
ラピス	「キミの一番気持ちいいおちんぽ、とお……あたし の一一番気持ちいいおまんこ、を……」
ラピス	「一緒に擦るのが、ホントの「一び……なんじゃな いかな? ね、ね、合つてる?」

「あ、逃げようとした時にひひー、つて」とま、正解、って書いたるようなもんだよ?」

「逃げちゃ、ダメ、発情が苦しいあたしを助けないと思つてえ……」

「わ、我慢の限界とつけて過ぎちゃつてるおまんこ……キミが、すつきりさせてちょうだいね♪」

●トック4

「おまん」とおちんこくつける前に……あたしもズボン、脱がないとね」

「んっ…………ふ、んうう、くつ、はあ……んあ、あ、はあん、あはあ……」

「お汁、で……パンツ、張り付いちやつてえ……」

「脱いでると……メリメリ、つて、おまんこのお肉」と、持つていかれるみたい……でえ……

「ん、ふ……くうん……それだけで、すつい、ゾクゾクしちゃうう……」

「くふう、んうつ……はあ、はあ……えへへ、おパンツ脱いじやつたあ……」

「うわ、なんかもう……お汁の量、す」「」といなっちゃつてるみたい……」

ラピス

「キミも、見えてるだよ? キミの「とペろペろ」
てただけで、あそこから、湯氣が上がっちゃうへ
らい、熱くなつてね……」

「自分で触つてると、もうとす」「ご」とになつ
ちゃつてるとまだ、触つてないところにね……
♪」

「にひひ、キミもすりかり釘付けになつちやつてる
ね……あたしのお・ま・ん・こ♪」

「今から」「とお……キミのおちんちんを」「あつ合
わせてえ……」「一び、しきやうからねえ……」

「あ、おーた逃げようとしたく……」「くじな
しい」

「ん、えへく。ぐぐぐ。これなら逃げられないで
しょ」

「あ、ふあ……お股の間に……キミの……硬いの
……挟んじやつたあ……」

「ん、ん、ふれ田、に」「すれて……しゃう
ん、ん、ぶれぶれ、かるる……」

「あ、ん、ふれ田、に」「すりすりする
の、とまんなつ……は、あ、ん、う、
しゃう、しゃうん、ん、」

「はあ、はあ……ああ、んつ、んつ……一人のお汁、混じってえ……すい」「、えっちな顔……してるね……?」

「ぴちゃぴちゃ……ぴちゃぴちゃ……んふふ、お股でする」「一び、やつぱ気持ちいいねえ……」「でもお……これ……んん……ずっとしていると……」

「お腹の中……切なく、なつてへる」「お腹の中……切なく、なつてへる」「」

「「いへへ、ん、ふうう……や、やつぱり……」れ、中に……入れるん……だよね……」「」

「おまんこの中、にじ……おちんちんを突っ込む、のが……ホントの一び……なんだよね?」「んふう……あたし、今になつて、ちょっとビデオでサドヒョウしてきちゃつた……」「」

「これから……本当にキミ」と……「一び……しゃうんだね……」「」

「うふふ……キミが、うう」と経験あるのかな?」

「あたしは、初めて……だよ。でも、最初がキミで、なんだか嬉しいな……」「」

「ずっと一緒にいたから……なんか、安心出来るし……」

「え、べ、別につ、緊張なんてしてないよつー！」

「もお……あたしが少し静かになつたら、そつやつてからかうんだから……」

「ふーん、いいもん。それじゃあ挿れちやうからね？ 気持ちよすぎで、おかしくなつちやつても知らないよ?」

「えへへえ……それじゃあ挿れちやう、ね……ん、っしょ……くふう、んんう……」

「はあ……んんつ……くうう、んつ、ふつ……ふうう、んつ、はあ……はあつ……」

「ちょ、たんま……うひ、これ、変な感じ……あたしの中が、どんどん広がっていく、みたい……」

「自分の指ですると全然違う……お腹、苦しい感じ……」

「え、む、無理じゃないよ……ちゃんと出来るもんっ！ もお、余裕ぶっちゃつてえ……」

「キ、キミの方こそ、気持ちよすぎで、すぐに白いの、出さないでよねつ、ふんつ！……」

「もう……挿れちゃうんだから……」「…………」

「ふうう……くあつ、はつ……ああんつ、んつ、
んつ……くうう……ひあ、はああ……」

「はあ、はあ……んんんつ……ふう、ふうう……」

「えへへえ、ほら、ちゃんと挿れられた、でしょ……
…」「…」

「…………うん、大丈夫。全然、苦しくなんてないよ
「つてかあ…………もつきまで興奮してたせいかな……
早く、おまんこで沢山感じたくて、しううがない
くらじ……」「…」

「くすっ、あたしつてえっちかなあ？」

「でも、キミのおちんぽは嬉しそうだね……おまん
この中で、早く動いて、つておねだりしてみると
たい……」「…」

「いいよお……おまんこの中の肉、でえ……」

「キミの白いの、ビュ、ビュ、つて、止まらなく
なるまで、いっぺんじシロシロしてあげるから、ね
…♪」

「んんう……はつ、あつ、ああん……くあつ、
はつ、はつ……」

ラピス

「ふうう……くあつ、はつ……ああんつ、んつ、
んつ……くうう……ひあ、はああ……」

「えへへへ、ジジ、かな……おまんこの中、気持ちいい?」

「うう、聞かなくても分かるね。くすり、もつれまで抵抗してた癖に……」

「もひ、おちんぽの」としか、考えられなくなつてゐみたいじゃない?」

「や、りしヽ田で、あたしの「」と、見てくれてるね……」「ふふ、ふふ、ふふかな……」

「ふあ、んぐ、んつ、まつ……」「うう、お股の上で、ぴょんぴょんしてるとお……」

「おひぱい、ぶるん、ぶるん、うう跳ねて、とつてもや、り、いよね?」

「あたし、氣づいてるんだよお……」「うも一緒に冒険してる時でも、たまにあたしの胸、ジーッと見てるでしょお?」

「えへへ……いいよ……今は、おまんこの感触と、裸のおひぱいが震えると」「……」

「あたしのえつちなど」「ふ、全部全部味わつてもいいんだからね?」

「ふう、んう……あた、しむ……発情してるから、なのかもだナビ……」

ラピス

「キミ、えつちな田で見られたるに似たる
へうご……どどど」「ふんしてわやう…
…」

「…」

ラピス

「」のまま……」のまま一緒に気持ちよくなろーね
…」

ラピス

「気持ちよくなつて、由のじっぽい、出しあやお
うね…」

ラピス

「くふり、んつ、まつ、まつ、まつ…
くうう、はんつ…」

ラピス

「や、あつ…は、はつ…はつ、はつ…
…と、くうつ…」

ラピス

「えくく、おちんぽつて」「んなに気持ちよかつたん
だ…」「れ、癖になつちやうよ…
…おみよ…」

ラピス

「ふうう、んくうう…
…自分の指なんかよ
りり、全然いい、これ…
…」

ラピス

「ああんつ！ へあつ、はんつ…す」「これ、
ビリビリするつ、おまんこビリビリ…
えつ…」

ラピス

「んきゅう、もつと、もつと、欲しく、欲しく、
り欲しい…」

「あんり、あんりー、奥ひ、ビリビリするの、
もひと、奥に……いあ、は……こくわ～～～
…」

「んぐり、あひ、きゅうりひ、へあひ、はあひ、
あひ、ああんり、ああああんりー」

「だめひ、だめひ、とまらなひ、とまらなじひ、
腰ひ、勝手にひ、ひんり、へひ、へひ、へひ～～～」

「あはひ、キミ、ヒトモ茜しそうな、顔して
るひ、ドモ、とおなじよひ、とおとあがな
いひー」

「中ひ、中ひビリービリ一弾われたらひ、絶対氣持

ちいじからひ、絶対だからひー」

「出してくれたまぢひ、お尻、パンパンするのひ、
止めあげないからねひ、あんり、ああんりー」

「ややかひ、くひ、あひ、はあひ、んう、
んう、ああんり、はあひ、ああああひー」

「はやひ、はやくひ、ひぐひひひ、だめだめひ、お
まん」壊れかやつかひひ、れつれつせつひー
「ビリービリーヒー、ヒビーヒビーヒー、ヒビーヒビーヒー、
お

ラピス

「ほら、ほら、ほらあつ！ いつぱい、お尻
を一歩きするから、早く、といつ、早
くうつ！」

ラピス

「やつ、あああつ、んぐり、んあつ、あああつ！
はつ、あつ、ああんつ、んひいんつ！」

ラピス

「おちんぽつ、あああつ、膨らんで来てるつ、や
んつ、これ、出るんだよね、出るよね、ね、ね、
ねえつ！」

ラピス

「遠慮とかつ、そんなのつ、全然いらなかつ、
ほら、出してよつ、おまんこに出してよつ！」

ラピス

「あたし、あ、あ、もう、限界だから、早くし
ろおつ、早くせえへつ！」

ラピス

「ほ、ら！ だ、し、て！ だ、し、て！ 白
いの、出せへつ！」

ラピス

「ああつ、あつ、あつ！ おちんぽ震えてるつ
やああつ、へる、「これへるよね♪」

ラピス

「ほら、ほら、ほらつ、だ、せつ、出せえつ、出
して、だ・し・てつ♪」

ラピス

「も、あたし、限界だから、ほらあへへ
へつ！」

ラピス

「おひつー? あつ、おつ……ぐりぐり、ん
ひいー? ひあつ、ああああんつーーー!」

「お、あー、くひー、ひー、ひいーんっ！ で
てつ、るつ、中でつ、あああつ、中で、びゅる
びゅるつてえつ！」

「んひつ、あ、へあつ、はあ、はあんつ……！」れ、
「しゅう！」つ、お、あつ……！」

「むり、むりむりむりっ！」これ、気持ちよすぎ
てつ、飛んじゃう、よつ、あたし、これ……飛ん
じゃうっ！」

「んやつ、あああああああ、ぐあああああああ

リニア・システム

「おおひー……んおひー……くわひー、んひひー……あひ、あひ、あひ……あああ……はひひ、ひいん

「やだ、まだまだまだつ、まだ出でるつ、ダメつ、

ああああつ！」

ラピス

ラピス 「お……おひ……おおおひ……」れ、頭、飛んじゃう……真っ白になるひ、おあひ、く、ああん……えあひ、はつ……」

ラピス 「んぎゅう……まだ、でりゅう……おひ、おひ……出し、出し過ぎひ、もおひ……ばかう、ばかばかばかあつ……」

ラピス 「ひぐひう……んおひ……む、だめ……」れ、無理、はあひ……くあああひ……」

ラピス 「はひ……ひい、ひうう……はあ、はあ……はあ……くう、ふうんひ……はあ、はあ……」

ラピス 「んあ……や……おまん」から、白いの濡れちゃう……」

ラピス 「ん……うう……キミがせつかく、あたしの中に出してくれたの……うう、すうじい、もつたいないい……」

ラピス 「はあ……はあ……で、でも……本当の「一び……すうじい、気持ちよかつた……」

ラピス 「最後の方、もひ、頭真っ白で……あたし、どうにかなつちやうかと……思つた……はあ、はあ……」

ラピス 「キミのこともリードしてあげられたし……ふう……えへへ、初めてにしては、上出来だったよね！」

ラピス 「…………え？ すつじい苦しそうだった？」

ラピス 「心配になるくらい、感じちゃってた……って……もお！」

ラピス 「キミの方こそ？ もうヘトヘトになつて、苦しそうにハアハアしてるじゃん」

ラピス 「あたしはあ……まだ、まうだ、おまんこ全然平氣だけどねえ？」

ラピス 「…………でか、抜いたらもう、すぐにまたしたくなっちゃつたかも……」

ラピス 「おまんこ、一回氣持ちよくなつたくらいじゃ、全然これ……発情、治まんない感じ……」

ラピス 「普段も、一人の時は氣を失うくらいしちやつてるからなあ」

ラピス 「…………えへへ、もちろん乗りかかった船だもんね。キミも、あたしの発情治めるために、手伝ってくれるよね？」

ラピス 「流石に疲れた？ そつかそつか。それじゃあ今度もあたしが動くから、キミは安心していいよ」

ラピス 「やうじゅう問題じゃない？ ジヤあどりゅう問題な
のや～？」

ラピス 「うへ、もひ無理つ、またおまんこムズムズして
たつー もつかい、するからねつー」

ラピス 「キミだつて、まだまだおちんぽ元氣にビンビンに
なつてるじやん♪」

ラピス 「それだけ、あたしの身体に夢中つて」とだもんね
♪

ラピス 「そんじや、続き……しそつか♪」

●アリック5

ラピス 「ん、しょ……あたしも、着てるもの全部脱いぢや
うね」

ラピス 「こ一びしてて、汗でもひつ身体中べたべただあ…
…」

ラピス 「んふ……」れ、シャツの「」……白いの、染み込
んじやつてるね」

ラピス 「これ、匂い取れるのかなあ……」

ラピス 「あたし、鼻がいいから、戦つてる最中にも匂い感
じちゃつたら、超ヤバいね……」

ラピス 「うふふ、そんな時は、責任取つてしつかり守つて
よね？」

「んん……」よ……ひと。ん? 『したの?』

「なーんか、やらしー皿であたしのー」と見てんじゃん……」

「さっきまでもほんと裸みたいなもんだったのに、全部脱ぐとそんなに違うもんかな?」

「うー、なんだか急に恥ずかしくなつて来たじゃん……」

「ぐるぐる……あたしのーとーんな思いにさせたキミには、しつかり仕返ししてやるんだからあ……」

「何回白いの出しても許してあげないんだからねつ、おちんぽ空っぽになるまでえ……ぜーんぶ搾りとつちやうからねつ……♪」

「んひひ……おちんぽ、ぴくん、つてしたね。キミもまだ期待してるんじやん……」

「いつもずっと一緒にいたけど、お互にーんなにえろえろだなんて、気づかなかつたね」

「えへへ……なんか、どんどん我慢出来なくなつてきた……」

「ね、ね、チューしながら、おちんぽ入れてもいい?」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

「なんかね、キミと、ギューッとしてつきながら、
」一びしたいんだ……」

「……びしたいんだ……」

「くすっ、ダメって言われても、しちゃうんだよ……ふん、ん、ふ……」

「ふふ……チュー、すき……もいど、したい
ふう……ちゅうり、かゅうりーーー！」

「さあ、さあ……」のままあ……んんっ、んうひ……

「えくえ……上も下も、繋がっちゃったあ……んん

「ん、いーよ……キミはそのままで……あたしが、

パン、パンにてお戻動かすからね。——んふテ
はあ、はあ——」

「な、んかあ……」の格好で、パンパンしてると
……胸、擦れちゃう……んい、あひつ……
ラ・ピース

「わなん、あん、……、ねまん」ださでも、気持ちいこのじう……乳首、キミの身体で、いやされ
る、とね……」

「身体中、気持ちよくなっちゃうみたい、でも……あん……これ、どうでもす」「ふ、ふ……んん、んうう……」

「もお、身体全部気持ちよくて……変になっちゃいそ…………んじゅつ、ちゅつ…………んふう、んふうう

10

「ああんつ…………も、もひひ…………氣持ちいいの、止
ラ・ル・ス

「ああん、……わ、ひ、も、ひ、く、氣持、こ、の、
め、ひ、な、い、の、……身體全部、……全部、わ、り、
い、ひ、く、じ、き、く、い、く、」

「んぐう、んふ……じゅ、ちゅ……あむ、じゅ
ちゅる……んあい、はい、あい……んんう、ん
じゅう、んう、くうんう……」

「はあんつ…… んんつー くあつ、んん……
じゅ、じゅ んんう ばひゅう、ばひゅうつ
ふうう、んふうう……」

「はあ……はあ……なんだか、こうしてぴつたり
こ一びしてると、すつ“い幸せになつてきえ……
…」

「終わりたくない、ずっとずっとや॥といへりついて
たい、つて思つちやうつ……」

「そ、そりゃあ……おまん」はうずうずしてゐるから
……気持ちいいのこなかつたら、頭おかしくなつ
ちゃいやう、なんだけどお……」

「キミ、も……あたしとくついて幸せつて
思つてくれてたら……なんか、嬉しいな……」

「んつ……きやうつ、あつ、はあん……ぐ、ぐした
の……くああつ……ああんつ……」

「腰つ、急にそんな……動かして……あつ！
はあんつ！ 下から、あたしつ……くうんつ！
」

「キミ、につ……くふうんつ……下からつ、突かれ
ちやつてつ……ひいんつ……」

「だめつ、それつ、深い……奥、深いと」当たつ
ちやつてるつ、行き止まりつ、突かれてる
うつ……」

「んひつー、くうつ、んぶうつー、やつ、それつ、あつ、あつ！ ぐりぐりー！ ひうひうー！」

「おくつ、ぱっかりつ！ あつ、あつ！ そんにやつ、強くしゃれたらひつ、んひつ、ああああつー！」

「気持ちいいのつ、止まらなくつ、なつちやうつばあつー」はああつ、はああああんつー！」

「おつ、んおつ、ほつ……何回も、来てるつ、おつしきなのつ、何度も何度もおまんこに来ちゃつてるうつー！」

「んぐつ、ん、もおおお……あたしの身体つ、好きに使つちやうつー！」

「最初は、あんなに嫌がつてた癖にいつ……もおつ、知らないんだからつ！」

「あたしも、好き勝手に動くから……キミのおちんぽつ、壊れちゃつても知らないんだからねつ……」

「…」

「ふんつ、ふんつ、ふりふりー！ のつ、むつりちんぽおつ……」

「あたひのつ、まんこの方がつ、強いんだからつ、うつうつ、それつ、ちやんとわからしめる、かぢねつー！」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

「ほりひ、ぱん、ぱんつ！　ぱん、ぱんつ！
どお、まんじギューギューリまつてるでし
ょつー！」

「はやく、まんこに負けてえつ……だらしな
くつ、びゅーびゅーしちゃえつ、ほりひ、モ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモ
らあつー！」

「体重かけてえつ……ぐぐぐぐぐぐぐ
ぽつ、全部絞つちゅうんだがりやつ、んひつ、
あつ……はああつ……あつ！」

「ビード、ビードあつ……　ほりひ、負けち
えつ、ちんぽ負けちやえつ！」

「女の子につ、ちんぽじ」かれでつ、だらしなく出
しちゃえつ、全部出しちゃえつ、ほりあつ！
ほ
らあつー！」

「んぎゅひ、くつ、ふつ！　あひひひ、んひひ
うつー！　またつ、下からずんずん、つてつ…
」

「あたしだつて、負けにやい、んだからつ、んぐつ
……もつと、もつと激しく、しちゃうつ、そうつ
うつー！」

「はあんつー！　んつ、くあつ、はつ、んつ、んつ、
んううううつー！」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

「あつ、あつ、おちんぽがつ、あたしの中でつ、どんどん大きくなつてるので、感じるつ！」

「まん」「の中でも、破裂しちゃいやーなほど、おつかなくなってるの……」

「ふーむ……ふーむ、出しゃつ、あたひの一番奥
にい、れを一つしきつせながら、ズゴコヅゴコ
全部だひでー」

「ふあっ、あっ、あっ！ 欲しいっ、欲しいのっ、白いの奥につ……あああっ、切なくて、変なおつー！」

「うわー、うわー、あーー。丑寅卯巳未申酉戌亥、ひじるい、あらい、さくらひー、へんぐらひーんっー！」

「す……」「うん……んん……中、でつ……びゅー、
びゅーってえつ……ぐるぐるして、るつ、あ
ひつ、ひいいいんつ……」

「もつと……もつとね……全部、全部出しつつ…
……」

「キミの、気持ちいいのね……まんこの中につ、全
部つ、はつ、全部吐き出すつ、あああつ、
はああんつ……」

「んいつ、んいつくう、はつ、あああんつ…
す」「おつ……中、入り切らないつ……どばど
ぼつ、つて……溢れてるつ……」

「はあーつ……はあーつ……んぐ、あきつ、ひつ…
……れ、ほんとにすき……まんこにビーム一
されるの……す」「ああああ……」

「ひあ……は……ひい、ひいん……つわ、わ…
く……おまんこ、泡立つかやつてる……」

「キミの白いのと、あたしの気持ちいいの、グチョ
グチョに混ざりついでいるヒー、ドロド
ロになっちゃつてるねえ……」

「ふう……ふう……はあ……ん、くわんつ…
……」

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス

ラピス 「お、んつ……はあ、んあああ……すう！」……お股の間から、壊れちゃったみたいに……混ざったお汁こぼれちゃってるう……」

ラピス 「んふ……もつたいないなあ、これ……あたし、おまんこちっちゃいのかなあ……？」

ラピス 「今度は、出してもらひたお汁、全部飲めるように……もつとがんばる、ね……」

ラピス 「……うん？ 今度も、だよ。こんな気持ちいい」となんて、一回で終わりな訳ないじゃん♪

ラピス 「あたしがあ……また、発情して耐えられなくなつたら……キミのお・ち・ん・ぽ……また、ズブズブして？ ね？ んふふ……♪」

●トランク6

ラピス 「ふう……汗かいちゃったねえ。出来ればお風呂に入りたいけど……」

ラピス 「そもそも、この宿にお風呂ないのが切つ掛けだつたね……」

ラピス 「ん？ なんでそんなにあつけらかんとしてるか、つて……」「

ラピス 「つがいの人とえつちな」とするなんて、フツーの「ことじやん?」

ラピス

「あたしは、キミが仲間に誘ってくれた時から、ずっと『つがい』だと思ってたんだけどなあ？」
ふふっ

ラピス

「キミだって、あたしとえっちな」と出来て、嬉しかった癖にい。人間のヒトって、そんなにえっちなことが恥ずかしいのかな」

ラピス

「少しば恥じらいを持って、つて……あたしだって、キミの前でしか、こんな姿見せないよ……」

ラピス

「大切な大切な、あたしの『つがい』の人だからねっ！」

ラピス

「……なに後じさりしてんのさ。あんだけ気持ちよさそうにしてた癖に、今更責任取りませーんとか、あり得ないんだからねっ！」

ラピス

「あ、そうだ。宿からちょっとといつたとこに、川があつたよねえ。そこに水浴びしに行こ？」

ラピス

「あたしが背を流してあげるからさ、ね……あたしの『つがい』さん♪」

「もちろん……水浴びしてるあたしに」「ふんした
ら、襲つちやつてもいいよ……？」

ラピス

「えへへっ、それじゃ一行こうよ」

「あたしがワガママ沢山言った分、今度はキミのしたいこと、何でもしてあげるからさつら」